

「おもてなしの心」を考える

天草市を訪れる観光客は、年間に290万人。このうちの約95万人が、7〜9月までの夏の時期に訪れます。本格的な観光シーズンが、もうすぐ始まります。観光客が増えると、まちにぎわいが生まれます。にぎわいが生まれると、地域が活性化します。観光客の皆さんに「天草に来て良かった」「また天草を訪りたい」と感じてもらえたら、私たちにとつてうれしいことですし、誇らしい気持ちになります。観光に携わっている人もそうではない人も、天草に住むすべての人がおもてなしの心で観光客の皆さんをお出迎えできれば、とてもすばらしいことだと思えます。そこで今号では、「おもてなしの心」について考えてみましょう。

おもてなしを学ぶ

天草を訪れる観光客の皆さんに、私たちはどのようなおもてなしをすればよいのでしょうか。そこで、このほど“くまもと観光賞”の観光大賞を受賞した、天草プリンスホテルの女将である國武裕子さんに話を聞きました。

天草の魅力は『人』です



profile

國武裕子さん

天草プリンスホテル（東町）の女将。天草地域の宿泊施設の女将で組織する“天草女将会”の代表も務める。平成21年から、ホテルの宿泊者を対象に市内各地を巡る健康ウォーキングを実施。天草における観光と健康づくりを組み合わせた“ヘルスツーリズム”実践の草分けとして、広く知られている。

天草には、観光客の皆さんが「また天草にきたい」と思える魅力的な観光名所・資源がたくさんあります。ただ、天草のいちばんの魅力は何といっても、自然豊かな環境に根ざして生活を営んでいる、天草の『人』だと思います。

たとえば、福岡から毎月のように天草へおいでになり、宿泊されるご夫婦がいらっしゃいます。この5年間で100回以上になります。ご夫婦の第一の目

的は、ほかでもない天草の人たちとのふれあいなんです。「天草の人たちの人情とおもてなしが大好きです」「何回来ても、新しい出会いと発見があります」とご夫婦はおっしゃいます。天草という土地が観光客を呼んでいるというよりも、天草に住む『人』が観光客を呼ぶのだということを実感しています。

宿泊者向けに、市内各地を巡る健康ウォーキングを

5年前から実施しています。38のコースがあり、観光スポットとは思われていない場所も巡ります。取り組みを始めた当初は、地元の人から「なんばしにこらしたんね？」とびっくりされたことがあります。自分が住んでいる土地に観光客が来るなんて、夢にも思っていないからです。

それでも、次に訪れたときは地元の人々が笑顔であいさつをしてくださるようになり、自宅へ招き入れてお茶や漬け物をごちそうしてくださるようになり

ました。心温まるおもてなしを受けた宿泊者の皆さんは、「来て良かった」「また来たい」と、心から満足されるんです。

健康ウォーキングの取り組みを通して感じることは、天草の人たちは元来、おもてなしの心が備わっているということです。笑顔やあいさつなどありのままの姿で接することが、観光客の皆さんにとつて何よりのおもてなしになるのだと思えます。

笑顔やあいさつ
ありのままの姿で